

2023 年度 シラバス

科目名	単位数	担当教員
行動障害臨床特論 (R5 認定通信)	4 単位	西永 堅
テキスト (1) 英国行動障害支援協会編・清水直治監訳 (2015), 『行動障害の理解と適切行動支援』, ジアース教育新社 ISBN-10:4863713169 (2) 西永堅 (2020), 『子どもの発達障害とソーシャルスキルトレーニングのコツがわかる本』, ソシム ISBN-10:4802612931		
科目の概要 発達障害は、言語や読み書き計算などの認知発達の遅れを特徴とする。それらの発達が遅れると、社会性の遅れも同時に見られることになり、また、適切な行動を獲得していかないと、コミュニケーション機能を持つ「問題行動」を誤学習することが予想され、その結果、強度行動障害と呼ばれる状態にもなりえる。「問題行動」を誤学習させず、適切な行動やスキルを学習させていくことを目指していくことは、障害のあるなしに関わらず、重要なことである。本科目では、応用行動分析学に基づいた指導法を学ぶことによって、発達障害のある人達への合理的な教育支援方法を修得していくことを目指している。		

I 科目の目的・ねらい

1. 集中する、がんばるなどの精神論的なアプローチではなく、合理的な方法で共生社会・インクルージョン社会を目指すために、エビデンスに基づいた指導法を学ぶ。
2. さまざまな障害を客観的に理解し、行動やスキルの獲得を目指す指導法を学ぶ。
3. 機能分析などのアセスメント技術を修得し、行動障害に対する合理的な支援方法を修得する。

II 授業計画と評価

- 第 1 回 自閉症・自閉スペクトラム症について
- 第 2 回 行動分析学の基礎について
- 第 3 回 行動分析の視点からの自閉スペクトラム症について
- 第 4 回 問題行動の捉え方
- 第 5 回 機能分析の基礎
- 第 6 回 先行刺激の分析
- 第 7 回 結果事象 (後続刺激) の分析
- 第 8 回 代替行動の形成について
- 第 9 回 行動の記録について
- 第 10 回 行動目標の設定
- 第 11 回 エビデンスにもとづいた結果のまとめ方
- 第 12 回 言語発達の基礎
- 第 13 回 応用行動分析学の視点からの言語発達
- 第 14 回 発達障害がある子どもに対する言語発達支援

第15回 言語の発達と社会性の発達について ソーシャルスキルトレーニングについて
科目修得試験

評価については、レポート 50%、科目修得試験 50%の割合で行う。

Ⅲ 参考文献

- (1) Mickey Keenan (原著)・Karola Dillenburger (原著)・Ken P. Kerr (原著)・清水直治
監訳 (2005), 『自閉症児の親を療育者にする教育—応用行動分析学による英国の実践
と成果』, 二瓶社 ISBN-10:4861080274
- (2) 西永 堅 (2017), 『子どもの発達障害と支援のしかたがわかる本』, 日本実業出版社
ISBN-10:4534054688